獨協医科大学病院だより

Dokkyo University School of Medicine Hospital News

日本医療機能評価機構　日本医療機能評価機構認定病院

謹賀新年

平成18年（2006年）

1月

第11号

◆ 主な内容 ◆

新年のごあいさつ …… 2
身近な病気Ｑ＆Ａ「乳がん」 …… 3
Healthy Life …… 4
命を慈しむ　～「きすげ会」とともに～ …… 5
最新鋭の血管撮影システム導入（放射線部） …… 6
院内学級発表会 …… 7
老人性認知症センター講演会 …… 8
編集後記 …… 8

新年のご挨拶 ―病院近況報告を兼ねて―

大学病院長　稲葉　憲之

皆様、新年おめでとうございます。平素病院の堅実運営、取り分け医療安全対策にご協力、ご支援賜り眞に有り難うございます。昨年は珪肺労災病院や芳賀赤十字病院に代表される地域医療・医師偏在（不足）の問題や総選挙における自民党の圧勝により早々と出された首相による医療費削減案など、特定機能病院にとっても多難な年でありましたが、何とか乗り切ることが出来ました。獨協医科大学病院の状況を以下報告申しあげて、新年のご挨拶に致したいと存じます。

先ず人事ですが、運営陣に基本的な変化はございません。寺野学長のご指導のもと、稲葉病院長、福田、有阪、三好各副院長体制も既に二年弱が過ぎ、４月には三年目を迎えようとしており、まずまず順調に運営されているのではと自負致しております。さて、本年度は例年に無く少なからぬ主任教授の交代がございます。眼科（小原教授）、耳鼻咽喉科（馬場教授、科の名称も元に戻ります）、整形外科（早乙女教授）、小児科・血液（江口教授）、放射線科（藤岡教授）の後任教授の選考が既に始まっております。また新設された形成外科には東大病院朝戸助教授が選出され、将に赴任しようとしております。

さて、新臨床研修医制度が発足し、二年が経過し、今年度から「後期研修」がいよいよ始まります。予想された如く研修医の「大学離れ」はかなりのもので、大学に残る新卒業生と他大学からの希望者は昨年の実績を大きく下回る結果でした。また、後期研修医も他施設からの希望者は今のところ無く、大学院受験者もゼロでした。更に、二年目の研修医からの大学院受験者は12人に止まり、昨年の約半数です。二次募集が行われる予定ですが、余り期待は出来ない状況です。このような状況を迎えて落ち込んでばかりもおられません。むしろ敢然とこの危機的状況を打破すべきで、既に有坂副院長（臨床研修センター長）は病院ホームページにて如何に当医大が初期・後期臨床研修医の研修プログラム・待遇改善に取り組んでいるかを具体的にアナウンスしております。卒業生ばかりでなく他大学からの研修医も当大学病院の真摯な姿勢と全職員の献身的な努力にいずれは注目してくれるものと信じております。

新聞等で既にご高承の事と存じますが、先に述べた珪肺労災病院がスタッフ、医療機器も新たに、また外装を一新して、「獨協医科大学日光医療センター」として４月より生まれ変わります。中元病院長始めスタッフの殆どが既に決まっており、外装工事、先進医療機器の搬入など当初混乱が予想されますが、全て想定の範囲内でございます。当面、呼吸器・循環器疾患、消化器外科、整形外科（リハビリを含む）、泌尿器科の急性期治療を中心に行いますが、将来は小児科、産婦人科の導入も視野に入れております。栃木県、地元（日光市）医師会、県医師会の強力な要請を受けての船出でございます。是非、大学病院同様ご支援を賜ればと存じます。

また、本年度中に「臨床看護学部」が新設されます。明年度には学生募集を致しますが、その一期生が卒業するまで現在の付属看護学校も存続させ、併設で参る予定です。大学敷地の北東部分で既に工事が始まっておりますが、問題は「ヒト」で、教官人事に若干難渋致しております。「ヒトが基本」という常識を改めて思い知らされております。とは言え、安易な妥協を排して、なりたい方ではなく当方がなって戴きたい方を採用する方針は微動だにしておりません。

大学病院は今年度中に外来のリフォームに着手し、同時に医療安全の向上（質、量）と医療の効率化を目指して入院施設のセンター化を図る所存です。小泉首相の公約実行（診療報酬 3.16%引き下げ）に備えて、既に限界に達している医療経費の節減に努める所存ですが、一方先進医療機器は積極的に導入致します。昨年度はＰＥＴセンター（サイクロトロン設備を含む）の新設とガンマナイフの導入を実現しましたが、今年度は64スライスの最新CTを文科省に申請しております。実現すれば、特定機能病院としては東京女子医大病院に続いて二例目という事になります。全ての病院・診療所が最新医療機器を個々に導入する必要は無く、むしろセンター病院との病病・病診連携が大切です。数年後には北関東自動車道が完成致します。群馬大学病院（重粒子線治療・予定）、筑波大学病院（陽子線治療）、自治医科大学病院（PET CT）、獨協医科大学病院（PET CT・サイクロトロン、ガンマナイフ、64列CT・予定）が「北関東自動車道医療圏」の重要な構成員として施設間の交流が想像以上に活性化することが予想されます。なかでも、当大学病院は地理上「扇の要」に位置しており、その責任を果たすべく鋭意努力する所存でございます。

昨年末に当大学病院としては始めて連携医療懇話会総会をグランドホテルにて開催致しました。村上ＰＥＴセンター長と中村光学医療センター内視鏡部門長による講演に続いて懇談会があり、県内からお集まり戴いた多数の先生方と直接お会いして楽しく、充実した一時を共有することが出来ました。担当の馬場委員長の持論である「顔の見えるお付き合い」の重要性を職員一同改めて認識した次第であります。今後は年数回このような会合を持てればと思います。

当大学病院は可能な限り病診・病病連携を進めて参ります。前にも増して益々のご指導・ご協力・ご支援をお願い申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

身近な病気Q&A

乳がんについて

第一外科　講師　林　光弘

乳がんは、乳房にできる悪性腫瘍ですが、多くは乳管というお乳を乳頭に導く管の細胞ががん化するといわれています。診断、治療の進歩が著しい病気ですので、“かかっても治るがん”を目指して日々診療を行っています。

Q 乳がんは増えていますか？

乳がんは現在、非常に増えています。女性のかかるがんのなかで一番多く、年間約38,000人の方が新たに乳がんと診断されており、これは女性の22人に1人が乳がんにかかることを意味します。また、年間9,800人が亡くなっています。しかし、乳がんは手術をはじめ、放射線療法、化学療法、ホルモン療法などさまざまな治療が有効ですので、がんのなかでは比較的“治るがん”とも言えます。

Q 手術はどのようにおこなわれるのですか？

今から20年前くらいに乳がんの手術をされた患者様から“乳房だけでなく、胸の筋肉を全部失い、腕がむくんでしまった”という話を聞いたことがあるかもしれません。しかし、現在乳がんの手術は乳房をより残す方向に向かっており、多くの患者様には乳房温存療法という手術を行っております。また腕のむくみがおこるのは手術の際、乳房だけでなく脇の下のリンパ節を切除することが原因でした。そこで、最近ではセンチネルリンパ節生検という新しい術式を導入し脇の下のリンパ節をわずかしかとらなくても良いよう努力しています。

Q 病院での精密検査はどのような検査を行うのですか？

視触診、マンモグラフィー（乳房専用のX線装置）、乳腺超音波、さらにしこりがはっきりと確認できる場合には直接針を刺して調べる細胞診検査を行います。また、最近、マンモグラフィーでしか異常が分からない、非常に早期のがんが見つかるようになっています。こうした病変にはマンモグラフィーを頼りに組織を採取することも最近では可能になりました。

Q 手術が必要になった場合、入院期間はどのくらい必要ですか？

手術に必要な検査はすべて外来で行うことができます。他に心臓の病気などをお持ちでない方は手術の２日前に入院していただき、手術後１週間で退院というのが標準的な経過です。脇の下のリンパ節をわずかしか切除しない方は、術後２日で退院できます。また、入院中も手術翌日から食事等、ほぼ日常生活と同じ生活ができます。

このように乳がんの診断、治療は患者様の負担が少なく、かつ効果が高い治療を行うように日々進化しています。乳房にしこりを感じたら是非、専門医の診察を受けることをお勧めいたします。

◆ Healthy Life ◆　健康生活を応援します！

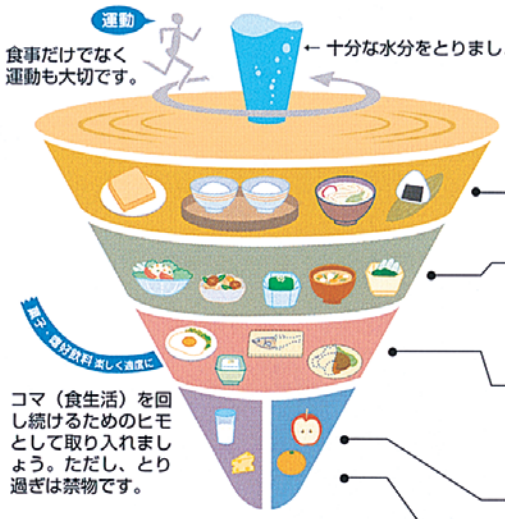
「食事バランスガイド」で健康的な食生活を

近年の日本人の食生活は、エネルギー・脂質・食塩のとり過ぎ、野菜不足など様々な問題があり、肥満や生活習慣病が急増しています。これらを予防・改善するには、バランスの良い食生活を心がけていくことが大切です。そこで、平成17年6月に厚生労働省・農林水産省により「食事バランスガイド」が策定されました。食事の望ましい組み合わせやおおよその量がイラストでわかりやすく示されているので、「何を」「どれだけ」食べたらよいかがひと目でわかるようになっています。

食事バランスガイド

あなたの食事は大丈夫？

●バランスの良い食生活は安定したコマのように回っています。



コマ（食生活）を回し続けるためのヒモとして取り入れましょう。ただし、とり過ぎは禁物です。

厚生労働省・農林水産省決定

自分の身体活動量に見合った「摂取の目安」を知りましょう。肥満の人や生活習慣病が気になる人は、ランクを１つ下げるなど、個々人での調整が必要です。

1日分	・身体活動量の低い（高齢者含む）女性 ・６～９歳の子供 およそ1600～2000kcalとして	・ほとんどの女性 ・身体活動量の低い（高齢者も含む）男性 およそ2000～2400kcalとして	12歳以上のほとんどの男性 およそ2400～2800kcalとして
主食（ごはん、パン、麺） ごはん（中盛り）だったら3杯程度 ※1SV＝主材料に由来する炭水化物として40g	4～5つ（SV）	5～7つ（SV）	7～8つ（SV）
副菜（野菜、きのこ、いも、海藻料理） 野菜料理5皿程度 ※1SV＝取材料の素材重量として70g	5～6つ（SV）	5～6つ（SV）	6～7つ（SV）
主菜（肉、魚、卵、大豆料理） 肉・魚・卵・大豆料理から3皿程度 ※1SV＝主材料に由来するたんぱく質として6g	3～4つ（SV）	3～5つ（SV）	4～6つ（SV）
牛乳・乳製品 牛乳だったら1本程度 ※1SV＝主材料に由来するカルシウムとして100mg	2つ（SV）	2つ（SV）	2～3つ（SV）
果物 みかんだったら２個程度 ※1SV＝主材料として100g	2つ（SV）	2つ（SV）	2～3つ（SV）

食事のバランスガイドを毎日の食生活に活かしましょう。

食事バランスガイドでは［主食］、［副菜］、［主菜］、［牛乳・乳製品］、［果物］の5つの区分ごとに1日にとりたい目安の数値［つ（SV）］を定めています。

※SVとはサービング（食事の提供量の単位）の略

STEP1 1日分の目安を知る

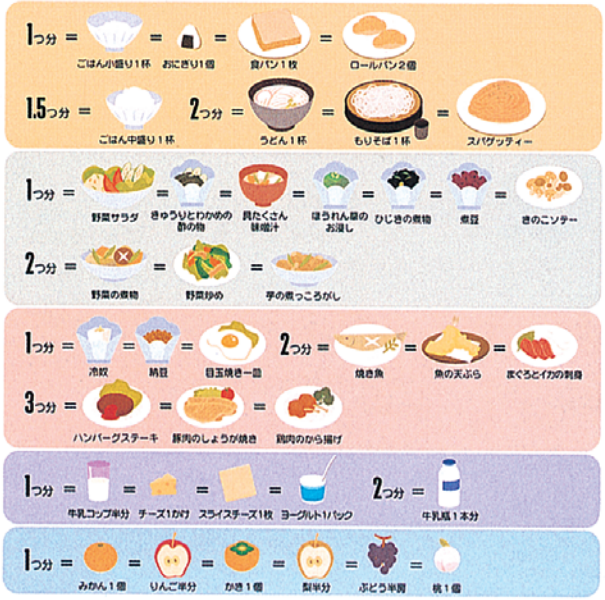
自分に必要な総摂取エネルギーから、1日にとりたい区分ごとの目安の数値［つ（SV）］を知る。

POINT!
バランスが偏るとコマは倒れてしまいます！

STEP2 3食に振り分ける ※1日の食事の組み立て例（総摂取エネルギーが2000～2400kcalの場合）

1日にとりたい区分ごとの目安の数値［つ（SV）］を、朝食・昼食・夕食に分けて1日の食事を組み立てる。（右の料理例参照）

食事例



◆ Healthy Life ◆　　健康生活を応援します！

命を慈しむ ～「きすげ会」とともに～

現在、日本で糖尿病は成人のおよそ六人に一人の割合で発症していると報告されています。（2002年第二回糖尿病実態調査　厚生労働省）糖尿病は、これからも増え続けていくであろうと予測されています。

こうした中で、糖尿病を持ちつつも病院側の協力体制のもとで会員たちが喜び、養生の励ましとなるような楽しく有意義な企画を常に考え、役員を中心に医療スタッフが心を合わせて、会活動をバックアップしている患者会「きすげ会」があります。

今年で８回目の総会を済ませ、ウォークラリー、勉強会（運動療法に合わせ、抄読会、ローカロリーのアイスクリームを楽しむ）ボウリング大会を実施しています。毎年、50名ほどの会員数ですが、年会費 3,800円（月刊糖尿病ライフ「さかえ」12冊分を含む）。これまでにも管理栄養士によるフランス料理、和食料理の食事会、薬剤師による薬物療法の勉強会、看護師による自己血糖測定の勉強会、医師による疾患についての勉強会、患者さん同士の親睦を兼ねたフリートークなどを行ってきました。

この数年間はコンプライアンスという用語に代わってアドヒアランスという用語が多く用いられるようになっています。それは、他者の指示に従うかどうかという従来のような他者依存的な意味ではなく、「患者さんが治療プランの決定に積極的に参加し、決定されたセルフケア行動を遂行すること」と説明され、慢性疾患領域で用いられる場合には「自分で自分をサポートする（support　oneself）」という意味が含まれています。

自分の疾患について学ぶ機会を多く持ち、視野を広めて自分自身を支える責任を自分自身が持ち、たゆまず努力しつづけることのできるよう、患者会はサポートしていきます。

糖尿病が気になるかたは、主治医にご相談ください。獨協医科大学病院糖尿病療養指導士の会事務局は、栄養相談室にあります。

老人の糖尿重しと言う人に個人差あるわと吾が胸の内

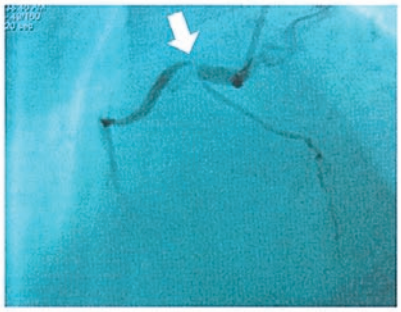
きすげ会会員　　小林　初江さん　　歌集「春の序曲」から

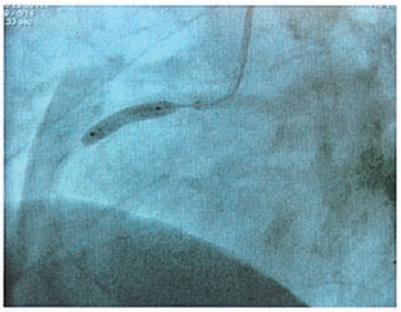
放射線部からのお知らせ

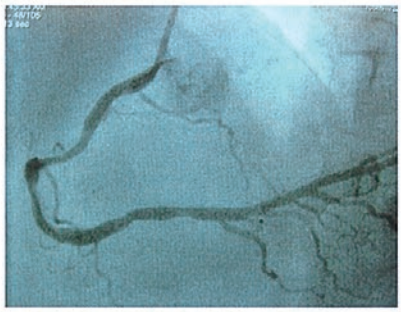
最新鋭の血管撮影システム導入

放射線部の心臓血管造影システムが、県内初の導入となるフラットパネルを用いた最新型に更新され、2005年11月より運用が始まりました。心臓血管撮影は心臓の筋肉に栄養と酸素を送っている血管（冠状動脈）の形態や血液の流れを調べる検査で、カテーテルという細い管を通常足の付け根から動脈に直接挿入し、TVモニタで確認しながらカテーテルを目的の血管まで進め造影剤を注入して撮影します。

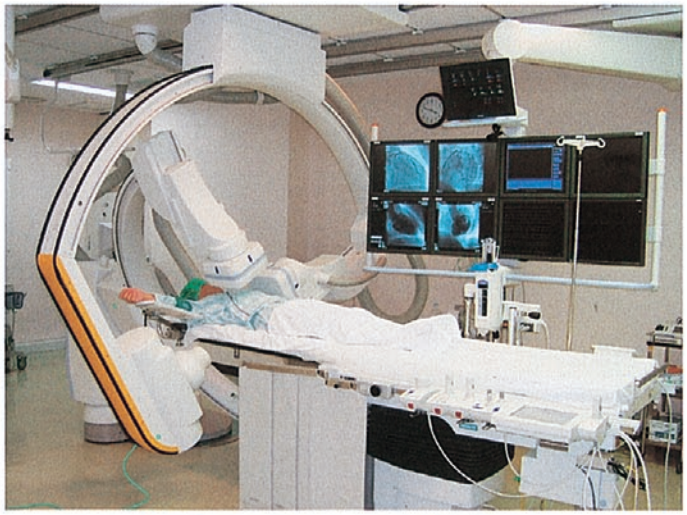
心筋梗塞の治療にはこの装置を使用します。この装置で造影剤を注入して詰まった血管の場所を確認し、詰まった部位をバルーン（風船状の治療器具）で拡げたり、ステントという薄い筒状の金属を留置して血液が再び流れるようにします。


血管が詰まっている状態


バルーンで血管を広げている状態


血管が開通した状態

今回導入したシステムはドイツのシーメンス社製で、フラットパネルを使用したことにより今までの装置に比べてコンパクトになっており、TVモニタの画質もよりきれいになりました。また同時に２方向からの撮影が出来るため、検査時間の短縮、被ばく線量の減少、造影剤使用量の低減、などにより患者様の負担を軽減し、心臓の病気の診断、治療に高い能力を発揮します。今回の新システムへの更新を機に、より一層の患者様へのサービス向上に努めていきたいと思います。


血管撮影システムによる検査風景

平成17年度　学習発表会

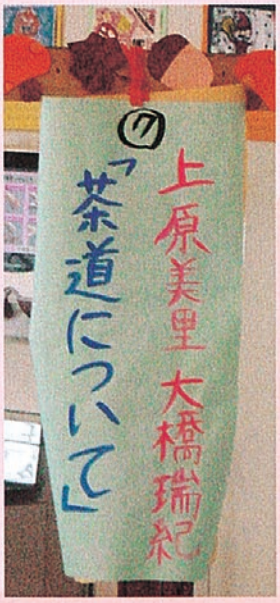
看護部　石川美知子

平成17年10月28日　今年も待望の院内学級「学習発表会」が開催されました。例年は10人～15人の学童数で行われていましたが、今年は20名の学童が学習の成果を発表しました。

毎年この時期になると子どもたちはソワソワしはじめ、教室の近くを通ると歌声や楽器の音がしてきます。「学習発表会なんだなー」と季節を感じたりする私たちです。

入院中の子どもを紹介します。

（中学生男児）看護師が「今日から治療だね　がんばるぞー」「さあ点滴しようか」と言うと「気持ちが悪い」ゲー　ゲーと吐き気を訴える。オイオイまだ点滴だって入ってないんだよ。それでも点滴が入ると、「学校に行くー」だって。



（小学生高学年女児）隣の児が治療中でグッタリしていました。すると「○○チャン、もう少しで終わりだよ」「私も2回目だったから」「学校で皆と話をしていると少しいいよ」などと励ましています。

学校では、医師や看護師には見せない顔をしたり、「オレの病気はさー　××クンと同じだよ。これからどうなるのかなー」病院ではあまり言わない事を先生たちに話しています。

院内学級に通っている子どもたちは、ほとんどが治療期間1年以上という子どもです。治療中は体調を崩し食事が取れなかったり、体がだるく体を動かす事さえ困難な子どももいます。そして治療中に次の治療が開始になるまで、体調を考えながら一時退院をします。でも院内学級には通って来ます。

そんな生活をしている子どもたちの楽しみの一つである学習発表会。病気と闘いながら通う院内学級。「おかあさーん」と時々メソメソしていた児がマイクの前で立派に発表しているとついホロリとしてしまう私でした。

平成17年度老人性認知症センター講演会（平成17年11月19日、壬生中央公民館）について

老人性認知症センター　下田和孝

獨協医科大学老人性認知症センター（旧「老人性痴呆疾患センター」）は1990年に栃木県初の老人性認知症のための指定機関として設置されました。精神科・神経内科の担当医・看護スタッフ・ケースワーカーなどが老人性認知症の診断・治療ならびに社会資源の活用のお手伝いなど、認知症に関わるあらゆるサポートが提供できるように努力しております。加えて、患者さまのみならず、患者さまのご家族や老人性認知症のケア・介護に携わる方々の啓蒙・教育も当センターの重要な責務と考え、昨年より年１回の講演会を開催するようにしています。

昨年の講演会も約350名の方々にご来聴いただき好評だったのですが、何人かのご家族から「家族の目線で老人性認知症の介護・ケアを語っていただける人の話が聞きたい」というご意見をいただきました。そこで、平成16年11月から約１年の準備期間を設け、歌手の橋　幸夫先生に壬生町中央公民館にて、ご講演いただくことを企画いたしました。橋　幸夫先生は昭和63年に老人性認知症となったお母様と橋　幸夫先生ご一家の物語を描いた「お母さんは宇宙人」を発表され、長寿社会に突入した日本の老人医療・介護の問題に一石を投じ、平成７年には「宇宙人バンザイ」、平成17年には「夢の架け橋」を出版、ご自身の体験を交えた講演を全国各地でおこなわれております。

講演会当日、11月19日は好天に恵まれ、700名を超える方々がご来場されました。会に先立ち、寺野　彰学長にご挨拶いただいた後、第一部として平田幸一センター長に「老人認知症センターについて」と題して、認知症センターの機能・役割、認知症の症状などについてわかりやすく講演していただきました。橋幸夫先生には「夢の架け橋　介護・家族・人生とは」と題して約１時間半にわたって老人性認知症の介護を中心に、家族機能、人生における出会いや感動と幅広い内容をユーモアを交えてお話をいただきました。今後も老人性認知症センターとして定期的にこのような講演会を開催して行きたいと思っています。

編集後記

あけまして　おめでとうございます。

新年を迎えると同時に、初春、新春と春を告げる文字が飛び交いますが、これはほんの一瞬のこと。お正月気分が抜けると同時に、近づいたかのように見えた春も実に淡いものでした。大寒はこれからですし、まだまだ厳しい寒さが続きます。どうぞ皆様、御自愛くださいませ。

冬来たりなば春遠からじ・・・念じるのみです。

W.I

獨協医科大学病院だより第11号
〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地
TEL 0282-86-1111（代表）FAX 0282-86-4775
http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/
発行年月日／平成18年１月１日
編集・発行／獨協医科大学病院広報誌委員会
印　　刷／㈱松井ピ・テ・オ・印刷